

◆三宅和広議員 12月定例会一般質問、初日のトリを務めます、てんどう創生の会、三宅和広でございます。

通告に従いまして質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

今回は、本市へのIターンの促進や本市出身者のUターンの促進といった、本市への移住・定住を促進するための取り組みについてお伺いしたいと思います。

国が平成26年12月に策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に次のような記載があります。

「東京都在住者の約4割、特に10代と20代男女の47%、50代男性の51%が、地方への移住を検討したいと回答している。また、60代男女は、退職などをきっかけとして二地域居住を考える人が33%に上る。移住する上での不安、懸念としては、雇用就労、生活の利便性のほか移住に係る情報の提供が不十分であることも指摘されている」というものです。

これを受け、国では、さまざまな施策を進めており、また、県や市町村でも移住・定住を促進するためにそれぞれ取り組んでいるところであります。

天童市でも、第七次天童市総合計画で「移住・定住の促進という項目を掲げ、人口の維持を目指し、移住・定住希望者のニーズに合った情報提供や相談体制の充実などを図るとともに、天童暮らしの魅力発信などの施策を積極的に展開していきます」としています。

移住・定住の促進は、人口減少対策や活力あるまちづくりなど、さまざまな効果が見込まれます。天童市においても移住・定住を促進するために、現在、さまざまな取り組みがなされています。こうした取り組みにより天童市のさらなる発展につながることに期待したいと思います。

さて、第七次天童市総合計画では、計画が達成されたかどうかを評価するために、「移住の取り組みによる20代から40代までの移住者数」「移住の取り組みによる50代から60代までの移住者数」「UIターン相談件数」などの指標を掲げています。目標を達成するために指標を掲げて取り組むことは意義あることと思います。

そこで、まず初めに、これら指標の現在の達成状況はどのようになっているのか、お伺いします。

次に、本市へのIターンを促進するための取り組みについてお伺いします。

「田舎暮らしの本」とか「TURNS(ターنز)」といった移住の専門雑誌が発行されるほど、最近では移住に関心を持つ人が増えてきています。先ほど紹介しました、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中の「東京都在住者の約4割が地方への移住を検討したいと回答している」という記載からも納得できます。

また、そうしたニーズに応える地方にとっても、Iターンは人口減少対策であったり活力あるまちづくり、有休農地の解消や空き家対策といったメリットが期待されるのではないのでしょうか。

こうしたことを受け、国や多くの地方自治体でIターンを促進するための取り組みを進めています。総務省では、地方移住に必要な情報を提供する「全国移住ナビ」というポータルサイトを運用しています。また、山形県でも「すまいる山形暮らし情報館」という移住交流の

ためのポータルサイトを運用しています。また、市町村でもそれぞれ工夫を凝らし、Uターンを促進するための取り組みを進めています。

天童市においても、本市へのUターン者をさらに増やしていく必要があると思いますが、本市ではUターン者を増やすために現在、どのような取り組みをしているのか、お伺いします。

次に、本市出身者のUターンを促進するための取り組みについてお伺いします。

今年5月29日付の山形新聞に「地元就職 29%だけ、本県出身来春卒大学生ら意向」という見出しの記事がありました。来年春に卒業予定の大学生らを対象として民間就職情報会社マイナビが調査したものです。本県出身の学生で地元就職を希望しているのは3割弱という結果が出たというものでした。地元就職を希望しない理由は、志望する企業がないが56.7%で最も多く、同社の担当者は「地元により企業があっても学生自身が知らないケースが多いと見られる。中学や高校など早い段階で周知することが大切ではないか」と指摘しています。

この記事を読んで、改めて若者の県外流出の多さを認識しました。大学4年間を県外で過ごすことは「かわいい子には旅をさせろ」的な発想では、生まれ育った地元で生活しては得られないことを経験することもでき、意義ある4年間を過ごすことができると思います。しかし、その後山形に帰ってこないということは非常に残念です。培った能力を、ぜひ地元の発展のために発揮していただきたいものだと思います。

地元就職を希望しない理由は「志望する企業がない」が56.7%で最も多い結果でした。マイナビの担当者も言ったように、天童にもよい企業がたくさんあると思います。ただ、それを知らない学生が多いように思います。

天童市のさらなる発展のためにも、移住・定住を促進するためにも、本市出身者のUターン者を増やす必要があると思います。天童にもよい企業はたくさんあるといったことを学生から理解していただく取り組みや、ほかにもさまざまな取り組みが考えられると思います。

本市では、Uターン者を増やすために現在、どのような取り組みをしているのか、お伺いします。

以上、1回目の質問といたします。

◎山本信治市長 三宅和広議員の御質問にお答え申し上げます。

初めに、本市への移住・定住を促進するための取り組みについての第七次天童市総合計画に掲げる移住者数などの指標の現在の達成状況について申し上げます。

平成29年度までの主な指標の達成状況につきましては、移住の取り組みによる20代から40代までの移住者数の累計が、七総最終年度の指標220人に対して240人となっております。

移住の取り組みによる50代から60代までの移住者数の累計については、指標100人に対して24人となっております。

UIターン相談件数の累計については、指標60件に対して10件となっております。

これらの結果は、定住促進、子育て世代支援事業などの効果により、子育て世代である20代から40代について指標を上回る移住に結びついたものと考えているところであります。

次に、本市へのIターンを促進するための取り組みについて申し上げます。

移住を考えている方に向けて本市の魅力や移住に関する情報発信を市のホームページで行っているほか、山形県移住交流ポータルサイト「すまいる山形暮らし情報館」で住居への支援や子育て施策、教育施策などの情報を発信しております。

また、東京有楽町のふるさと回帰支援センター内で県が開設する、やまがたハッピーライフ情報センターで移住に関する情報を発信しているとともに、東京で9月に開催された移住フェアへ参加して、本市のPRや移住相談への対応を行ったところであります。

次に、本市出身者のUターンを促進するための取り組みについて申し上げます。

Uターンにつきましても、Iターンと同様に移住情報の発信を行っているほか、地元回帰のための動機づけとして子どもたちを対象に地域資源を活用した郷土愛を育むための学校教育を実施しております。

また、地元回帰や定住を促進するため、県と連携した奨学金の返還支援、山形労働局などと連携した東京での合同企業説明会の開催などに取り組んでいるところであります。

◆三宅和広議員 御答弁ありがとうございました。それでは、再質問をさせていただきます。

まず、指標の現在の達成状況についてでございますが、移住の取り組みによる20代から40代までの移住者数の累計が達成できたということで、ほかはちょっとまだなところでございますが、まだまだ何年か先のことでございますので、いずれかは達成になるのかなという気がしています。

ちょっと気になった点が一点ございます。20代から40代までの移住者数220に対して240という数ということでございました。御説明の中で、移住促進、子育て世代の支援ということで、そちらのほうの取り組みで移住された世帯が多かったのかなというようなことでございましたけれども、これ、Uターンという定義が、地方から都市部に移住した人が再び地方の生まれ故郷に戻ること、Iターンというのが、都市部から地方に移り住むこと、Jターンは、地方から大都市に移住した者が生まれ故郷の近くの中規模の都市などに戻り定住することというふうに規定されております。UIターンとよく言いますけれども、UIターンというものを増やす必要があるのかなという気がしております。例えば県内の他市町からこちらのほうに、天童市のほうに入ってくるような方を増やすのも一つの方策であるとは思いますが、UIターンを増やすことも必要なのかなという気がしております。

何でかという、UIターンというものは全く山形県にゆかりのない方がこちらにいらっしゃって新しい風を吹き込んでいただけというようなこともありますので、そういった意味からも地域づくり、地域活性化というような意味合いもあるのかなと。単に移住・定住ということで人口が増えればいいだけではないというような気がしますので、ぜひ、UIターンというものも増やしていかなければならないというようなことも認識していただきたいなと思っております。

それで、こちらのほうに指標いろいろありますけれども、UIターンの相談件数というところだけはUIターンに触れているところでございますけれども、できれば、これ可能なのかどうかわかりませんが、UIターンの移住者数、実際数をぜひ把握してほしいなと思っております。UIを進めるに当たって、その実情、実態がわからないとUIターン

についての取り組みもなかなか進めづらいところがあるのかなと思いますので、その辺のところをぜひ御認識いただいて、今後取り組んでいただければよろしいのかなと思っております。

これについては、御答弁必要ございませんので、こういったことがあるのかなということを考えていただければと思います。

以上で、指標の達成状況については質問を終わらせていただきたいと思います。

次に、Iターンを促進するための取り組みについて再質問させていただきたいと思っております。

先ほど現在の取り組み状況について御説明いただきました。いろいろ取り組んでいただいているわけですが、直接移住希望者と接する企画というのが「やまがたハッピーライフカフェ」と「ふるさと回帰カフェ」の2回だけだったというふうには、私も調べてみまして知ったところがございます。極めて移住希望者と接する機会が少ないなというふうに感じたところがございます。情報提供という部分と、この二つだけの取り組みだったかなと思っております。移住・定住に熱心な自治体さんは、もっといろいろな企画を数多く企画して開催しているようなことがございます。

現在、取り組んでいるもののほかに、今後何か新たに取り組むような、そんなお考えになっているようなものがあれば、お知らせいただきたいと思います。

◎遠藤浩総務部長 お答えいたします。

現在、取り組んでいる以外のものとしまして、初日の予算の概要のほうでも副市長から申し上げさせていただきましたが、来年度から地域おこし協力隊を配置したいということで、これから準備作業に入っていくところがございます。その地域おこし協力隊の役割としまして、移住・定住関係の情報発信あるいはお試し移住関係の企画、立案、実践等を予定しているところがございます。

こういった取り組みをしまして、今後より一層移住・定住が図られるよう取り組んでいきたいというふうに思っているところがございます。

◆三宅和広議員 ありがとうございます。

それでは、何点か、Iターン促進するための取り組みについて、お伺いしていきたいと思っております。

今、地域おこし協力隊の話がありました。平成 30 年4月1日現在ということで、県内では28 市町村、92 人が地域おこし協力隊ということで活動されているというようなことございました。総務省のほうでも6年後には 8,000 人まで拡大したいと、拡充したいというようなことでいろいろやっているようでございます。総務省によりますと、隊員の約6割が任期終了後も定住をしている、それから、同一市町村内に定住した隊員の約3割が自ら起業しているというようなデータがありました。

天童でも積極的に活用していく必要があるのかなと思ったところがございますが、来年度、担当お二人のうち1人がそういった移住関係の担当をされるというようなことで、大変心強く思ったところがございます。

今、担当ということでお話があったわけなんですけど、実際に地域に入って活動する方、今部長おっしゃったのは、多分職員的な立場で企画、立案をしていくというようなことだと思うんですけども、例えばどこかの地域に入っていったって活動するというような地域おこし協力隊もあるかと思うんですけど、その辺のところ必要かと思いますが、その辺いかがでしょうか。

◎遠藤浩総務部長 議員おっしゃるように、一つの方法としまして地域の活性化を図るという意味合いでは、一つの地域のほうに入っていくとしまして、その地域にあるさまざまな資源を活用して地域振興を図っていくというふうなやり方もあるかと思います。

先ほど申し上げました移住・定住関係のほうの地域おこし協力隊につきましては、特定の地域に入っていくというようなことではなくて、ただ、それぞれ市内全域のさまざまな観光資源、さまざまな資源などの調査などは行うということで地域に入っていく部分はあるかと思いますが、特定の部分に入り放しというようなことでないということで、全体的な市全域を考えた中での移住策を企画していただくというようなことで今のところ想定しているところでございます。

◆三宅和広議員 来年度、移住・定住関係担当1人、それから国際交流担当1人というようなことだと思うんですけども、来年度はお二人ということなんですけど、その後増やしていくというような計画というかお考えはありますでしょうか。

◎遠藤浩総務部長 まずは手始めに2名ということで来年度配置していきたいと思います。その後につきましては、状況等を見ながら、さらに拡充等々を検討していきたいというふうに考えているところでございます。

◆三宅和広議員 ありがとうございます。

11月16日に有楽町にありますふるさと回帰支援センターのほうに訪問いたしまして、やまがたハッピーライフ情報センターの移住コンシェルジュの海月さんという方、女性の方なんですけど、面談してまいりました。いろいろ移住・定住についてお話をお伺いしたところでございました。

気になるところを何点か御紹介いたしますけれども、若い人からの相談が多い。それから、月に20件ほどの相談がありますというようなことでございました。それから、山形にゆかりのある人の相談が多い。具体的には、奥様が山形出身だったりする方、そういった方からの相談が多いなというふうなことでございました。

意外だったのが二つほどありまして、雪について理解されていない。天童って雪が大変多く降るんだろうなというふうに思われているというふうなことでございました。「あんまり降らないんですよ」と説明すると、相談した方は驚かれるというようなことをおっしゃっていました。それから、アクセスについてなんですけど、「東京から3時間ほどで行けるよ」と言うと、「そんなに近いんですか」というようなことを、よく言われるというような話もしておりました。

それから、若い人はアパートとかマンションを好んで、空き家を使ってというような話をすると、空き家のほうは上の世代の方々に、若い人のほうはアパートとかマンション暮らしを好んでいますねなんていう話をされておりました。

もう一つ気になったのが、ブランドの農作物をつくりたいという人がいる。そういった場合は、地域おこし協力隊を推薦していますよというようなお話をされておりました。農業であつたらば果樹が人気があるというお話で、そうすると天童でも農業従事の協力隊を募集すれば来ていただけるのかなというふうに思ったところでございます。

その点、いかがでございましょうか。

◎遠藤浩総務部長 お答えいたします。

地域おこし協力隊の役割につきましては、さまざまな分野があるかと思われまふ。現に県内でも農業関係のほうの農業支援とか、実際の農業についていらっしゃる方もいらっしゃるようでありまふ。そうしたところも含めまして、農業面でこういった部分が今後必要になってくるのかなどもきちんと把握しながら、その方面につきましても必要性があれば配置を考えていきたいというふうに思っているところでございまふ。

◆三宅和広議員 ぜひ検討をお願いしたいと思ひまふ。

現在の地域おこし協力隊は、そもそも農業分野のものと経済のものが合わさった形で地域おこし協力隊となっておりますので、農業分野に従事していただく方というのも大変重視しているのかなと思ひまふので、その辺のところをぜひ考えていただければよろしいのかなと思ひまふ。

次の御提案というかお願いというかあるんですが、やまがた暮らしインターンシップ事業というのがあります。これ県の平成30年度の新規事業になるんでございまふが、やまがた暮らしインターンシップ事業ということで、首都圏の若者、学生等をターゲットにしたもので、山形の暮らしと仕事の体験によって、現地のなりわい、生活を実感して地域への思いを持ってもらう、我々天童では天童への思いを持ってもらうことで、移住への不安を解消する。それから、実体験をもとに山形暮らしのモデルとなる実践を情報発信していただくことによって移住者拡大を図る事業だというふうにされておひまふ。

実際にこれを使ってやっているのが、大江町の事例があつたと思ひまふ。「やまがたCAM Pin大江 自分の未来を探す3日間」ということで、今年8月22日から24日までの取り組みだつたようです。確か全県で5件だつたかと思ひまふが、こういったものに、来年度以降になるかと思ひまふが取り組んでみてはいかがかなと思ひまふんですが、その辺いかがでしょうか。

◎遠藤浩総務部長 お答えいたします。

議員御指摘の事業につきましては、今年度やまがたCAMPというようなことで県のほうで実施をした事業の内容でございまふ。県のほうでそれぞれ県内の1市4町のほうに声がけをしまして、それぞれの体験メニューをつくりまして、実際に体験していただいたというよ

うなことでございます。そのときには 29 名の参加があったというふうに聞いているところでございます。短期間の移住、お試し移住というようなことになるかと思えます。

これにつきましては、県のほうからちょっとお伺いしているんですが、来年度、県のほうでは各市町村が実施する事業に対して補助をするというふうな制度に改めたいというふうなことを伺っております。具体的なこのお試し移住につきましては、先ほどもちょっと申し上げましたが、地域おこし協力隊が配置になった段階でさまざま企画をさせていただきまして、こういった事業が実施可能だとすれば、この事業を活用して実施をしていくようなことで考えたいと思っているところでございます。

◆三宅和広議員 制度が違ってきてということであれば、市独自のやつでということ御検討よろしくお願ひいたします。

次に移りますが、先ほどホームページのリニューアルというふうなお話がありました。今回この移住・定住をテーマとしたわけなんです、それに当たって天童市のホームページのほうから移住・定住について情報を得ようかと思って検索してみたんですが、ホームページのほうに移住・定住というページがありませんでした。なかなか探せなかったのですが、結果的にたどり着きました。トップページの「暮らしの出来事」という欄から「引っ越し」というところをクリックして、開いたページの一番下に「転入転出」というものがあって、その下に「そうだ、天童に住もう」というものがあって、そこをクリックすると、「そうだ、天童に住もう(移住)」というページに飛んでいくというふうなことでございます。

これ、大変わかりづらいのではないかなと思いました。私、天童市のホームページをよく拝見しますけれども、この私でさえちょっと迷ったということは、天童に移住を考えている人が天童市のホームページから情報を得ようとしたときに情報にたどりつかないのではないかな、諦めてしまうのではないかなというのがちょっと心配したところでございます。

長野県佐久市のホームページは、トップページのほうに「移住・定住、観光」というバナーがあったり、秋田県大仙市のホームページには、トップページに移住・定住という大きい、本当に画面の4分の1ぐらいの大きいバナーをつくって表示されるようなことをやっております。ほかにも移住・定住に熱心な市町村は、そういったホームページのほうで情報を提供するようになっているのかなと思えます。

天童市もトップページのほうに移住・定住のバナーをつくって、移住・定住のページにすぐ飛んでいくようにしてはどうかなと思っております。具体的に申しますと、今現在、ふるさと納税のバナーが右上のほうにあります、そこに同じようなものをつくって移住・定住のページに飛んでいくような、そういった仕掛けにしたほうがいいのかという気がします。その辺、いかがでしょうか。

◎遠藤浩総務部長 大変御指摘ありがとうございます。今、御指摘いただいた御意見に基づきまして、ホームページのトップページのほうのバナーのあり方につきましては変更をかける方向で進めてまいりたいというふうに考えているところでございます。

◆三宅和広議員 よろしくお願ひいたします。

それで、そのページに飛んだ後にちよっと思ったのが、昨年だったと思いますが、「住んでみねが天童市」という、プロモーションビデオをつくられたわけなんですけれども、それがそのページのほうからリンクされていないんですね。これは逆に言うと、ホームページのほうから別のもので飛んでいくような仕掛けになっていますけれども、その「そうだ、天童に住もう」のページにプロモーションビデオということが表示されていないんですよ。その辺のところもあわせて直されてはいかがかなと思っています。せっかく移住・定住のページがあるんですから、そこからそのビデオが見られるようにしたほうがいいのかと思います。

それから、もう一つ、今年度リニューアルしたというお話を聞いておりますけれども、移住ハンドブック「そうだ、天童に住もう」という移住ハンドブックをつくられておりますが、これもリンクが張られておりません。

ちなみに、この「そうだ、天童に住もう」については、天童市のホームページからはどこからも入っていけないという状況だったと思います。他施設のページからしか入っていけないというようなことがございましたので、その辺のところもあわせてお願いできればと思います。

あともう一つ、ついでに、移住者の声というものも載っておりませんので、その辺もあわせて、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

ふるさと納税推進事業とかプロモーション事業とかいろいろやっております。天童市の認知度の向上を図っているということでございますけれども、せっかく天童市を知っていただいて天童市に移住を考えたとしても、その後の情報提供がうまくいっていないのでは移住に結びつかないのではないかなと思います。プロモーション事業、こういった事業というのは、結局移住に結びつけるためにやっているかと思っておりますので、その辺がうまくリンクさせて移住につながるようなことにしていただければと思います。いかがでしょうか。

◎遠藤浩総務部長 ただいま御指摘ありましたホームページでの情報の取得のしやすさにつきましては、御指摘のとおり改善していきたいというふうに考えております。

具体的には、移住者のほうの動画関係、これにつきましても移住のほうのバナーから入っていただけるようにすること、あともう一点、市で作成しておりますガイドブック、これにつきましてもPDF化しまして、そちらのほうの移住のバナーからすぐ見られるような仕掛けに変えていきたいというふうに思っているところでございます。

今後とも情報の発信につきましては拡充を図っていきまして、天童市の魅力を大いに発信していきたいというふうに考えております。よろしくお願ひいたします。

◆三宅和広議員 よろしくお願ひいたします。

Iターンで最後にしたいと思います。

先ほど総務省のポータルサイト「全国移住ナビ」というものがあるというお話をしました。こちらの中で、これ全国 1,700 の市町村が使っているポータルサイトになるようなんですけれども、その中で市区町村プロモーション動画の再生回数のコンテストのようなものがありました。天童市、359 位の 45 得点ということで、山形県内で一番高かったのが 63 位、155 回の酒田市でございました。それから、朝日町とか南陽、中山、鶴岡、長井、庄内という



ようなことが載っておりました。ぜひこういった動画回数も増えるようなことにやっていただければいいのかと思っております。

この全国移住ナビのほうのデータ提供になるんですが、データ提供が少ないように思いました。「仕事を探す」とか「住まいを探す」「特産品を見る」「体験談を見る」「観光情報を見る」というバナーがあるわけなんですが、そこは登録されている情報が少ない。あればあっただけいいのかと思います。特産品を見るとか体験談を見るというところには、情報が入っておりませんでした。特産品は天童にいっぱいあると思いますし、体験談も、先ほどのハンドブックのほうには二つほど記載されておりますので、そういった体験談もこの総務省がやっているポータルサイト、ぜひ活用されたほうがいいのかと思います。よろしく願いいたします。

次に、Uターンを推進するための取り組みについて再質問をさせていただきたいと思えます。

先ほど小学校向けの企業紹介ガイドブック、これ何年か前に、28年度でしょうか、「天童のしごと」学び事業ということで、商工観光課さんのほうでつくられた冊子を活用して、小学校、中学生に授業でやっているというような内容なのかなと思います。それから、就職セミナーを開設しているというようなことでございました。

小・中学生向けのガイドブックを活用して学校教育、もっと積極的に進んでいただければいいのかという気がしましたし、就職セミナーなんですが、これは県のUターン情報センターあたりで実施しているものを活用しているのかなと思いますが、この辺も積極的に活用していただければいいのかと思っております。

御提案したいのが二つほどございます。

一つは、就職セミナーは学生を対象にしたものになるわけなんですが、学生の親を対象にした就職セミナーとかチラシとか、そういったものをつくって周知することも必要なのかなと思っております。先ほど御紹介いたしましたふるさと回帰センターのやまがたハッピーライフ情報センターの海月さんと面談をしたときにお話があったんですけども、山形はものづくりがすぐれている企業があるにもかかわらず、山形の企業の魅力の中・高生が知らないのではないかな。これは親も理解していないというようなことがあるのではないかなんて話がありました。

といったこともありまして、親から天童にもいい企業がたくさんあるということを理解していただいて、親からも子どもにそういったことを伝えてUターンをしていただくというような取り組みも必要かなと、効果があるのかなという気がします。

その辺、いかがでしょうか。

◎森谷倫祥経済部長 お答え申し上げます。

就職のセミナーなので私のほうからお答え申し上げますが、保護者のための就職ガイダンスというのは、山形県と山形県労働局で共同で行っております。対象につきましては現在3年生、大学でいうと3年生、翌々年の春に卒業を迎える方の親を対象にガイダンスを夏に行っております。内容につきましては、やはり県内へのUターン就職を促進するため、お子様

にぜひ宣伝してくれという内容でございます。会場につきましては、各県内の地域4カ所、村山地域1カ所、置賜1カ所、庄内1カ所、最上1カ所ということで実際開催しております。

今年、東根で開催しております、参加者が全体で 22 名、市内からは1名の参加があったということがわかっております。ぜひ天童でも会場になれるように、少し労働局や県のほうに働きかけていきたいと考えているところであります。

以上です。

◆三宅和広議員 取り組んでいただいているということでちょっと安心したところがございますが、1名の参加というのは残念だなという気がしました。積極的にPRするようなことも必要なのかなと思います。

セミナーの開催とあわせて、天童市内の各家庭にチラシをつくって配るとか、市報に載せてPRするとか、そういったことも可能なのかなと思いますが、その辺はいかがでしょうか。

◎森谷倫祥経済部長 提案のとおりさせていただきたいのですが、対象の数がどれぐらいいるか、ちょっとまだ把握できてないので、その辺のニーズに合わせた形で宣伝方法等は考えていきたいと存じます。

以上です。

◆三宅和広議員 よろしくお願いたします。

Uターンでもう一つ御提案というか、こんなものはどうかなというのがありまして、企業向けの講習会というものをやってもいいのかなという気がしました。

11月15日、先月の15日になりますけれども、地域産業活性化公開講座ということで、明治大学の野口先生から御講演をいただきましてお話を聞きました。内容は、人材資源管理の視点からの若手人材の育成についてのお話をお伺いしたところでございます。何でこういった若手人材の育成が必要かなんていうお話を詳しく説明していただいたわけなんですけれども、途中で退職してしまう、離職してしまう社員の方が多いというようなことで、そういったことをなくすためにいろんな取り組みが必要だよ、会社としても考え方を改めなければならないよ、というような話だったと思います。

第二新卒という言葉があります。入社後3年目ぐらいまで転職を志す人だそうです。こういった言葉があるぐらい、1年から3年以内に辞めていく人が多いというような実態があるというようなことで、こういったことを減らさなければならないというようなことだったと思います。

あわせて、こういった人、離職する方がいたら、その方からぜひ天童に帰ってきていただきたいというようなことも話していければいいのかなと思います。

そういったこととあわせて、もう一つ、ユースエール認定企業というのがあります。若者の採用、育成に積極的で、雇用管理の状況などで優秀な企業を認証する制度だそうです。ユースエール認定企業というものがあるということでございます。

それから、これは有名でございますけれども子育てサポート企業、こういった認定制度もありますので、企業にこういった認定制度を活用して認定をしてもらって、うちは若い人た

ちを大切にしている企業だよというようなことを皆さんに知っていただいてアドバンテージをもらうというか、少しほかの企業よりすぐれているんだよということで進めていただくようなことも考えられるのかなと思って、そういったことをお知らせするような企業向けの講習会があってもいいのかなという気がしておりました。その点、いかがでしょうか。

◎森谷倫祥経済部長 お答え申し上げます。

ユースエール認定制度並びに次世代育成支援対策事業に基づく認定、くるみん認定とかいうものでございますけれども、これにつきましては、各担当の県なり国のほうからありますけれども、私どものほうからもぜひ積極的に各企業のほうに宣伝させていただきまして、この認定制度のメリット等をアピールしていきたいと考えているところであります。

以上です。

◆三宅和広議員 認定制度の活用もPRしていただくということとあわせて、先ほど明治大学の野口先生が言ったような、そういった企業としての具体的な取り組みが必要だよなんという話もぜひPRしていただければいいのかなという気がしますので、よろしく願いいたします。

移住・定住は、他市町村でも力を入れている分野ではないのかなと思います。天童市も力を入れていかなければならないと思いますので、よろしく願いいたします。

情報提供という話がありました。絶えず新しい情報を発信していくことによって、一人だけでもその情報を見ていただければ、今はそこから情報が拡散していってもっともっと多くの人に知ってもらえるような、そういった社会にもなっておりますので、ぜひ進めていただければと思います。

情報提供とあわせて、いろんなイベントを進めていただいて、「移住・定住と言えば天童市」と言われるぐらい積極的に進めていただければなと思いますので、よろしく願いいたします。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。